

ダムの目的①：揖斐川の治水

100年に1度発生する確率の
豪雨による大垣市万石地点流量
 $6,300\text{m}^3/\text{s}$

徳山ダム及び横山
ダムで $2,400\text{m}^3/\text{s}$
を貯留

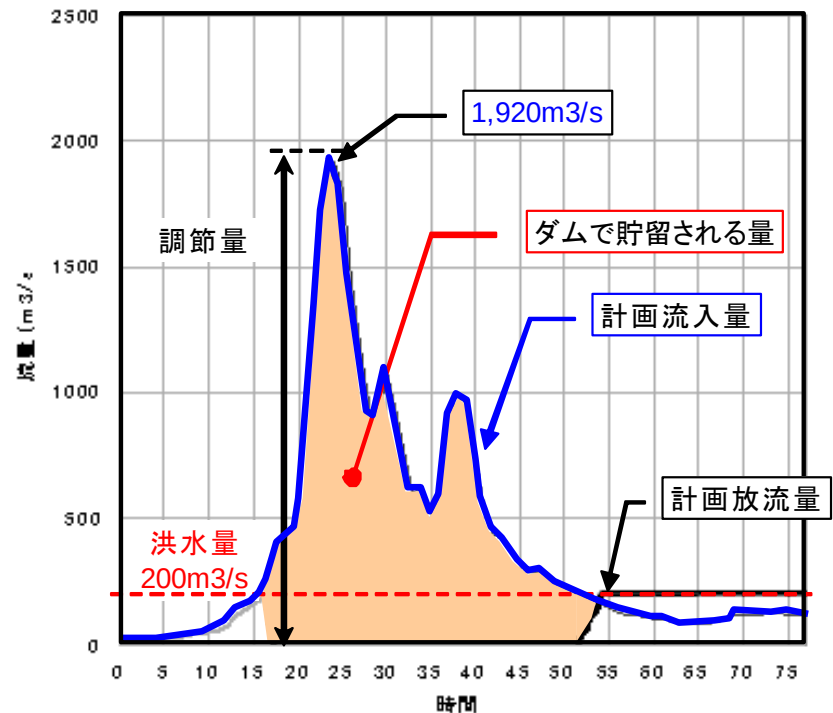
大垣市万石地点の河道
に流れる流量 $3,900\text{m}^3/\text{s}$



100年に1度発生する確率の豪雨に対応する計画！

【洪水期（6月16日～10月15日）】

徳山ダム地点における計画高水流量 $1,920\text{m}^3/\text{s}$ の全量の洪水調節を行い、下流の高水流量を低減させる。

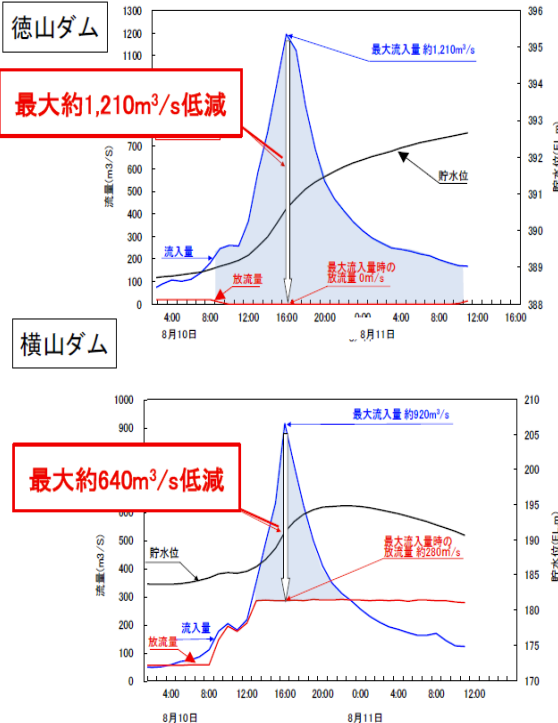


- 徳山ダム集水域 : 約 254km^2
- 横山ダム単独集水域 : 約 217km^2
- 徳山+横山集水域 : 約 471km^2
- 万石地点集水域 : 約 1196km^2

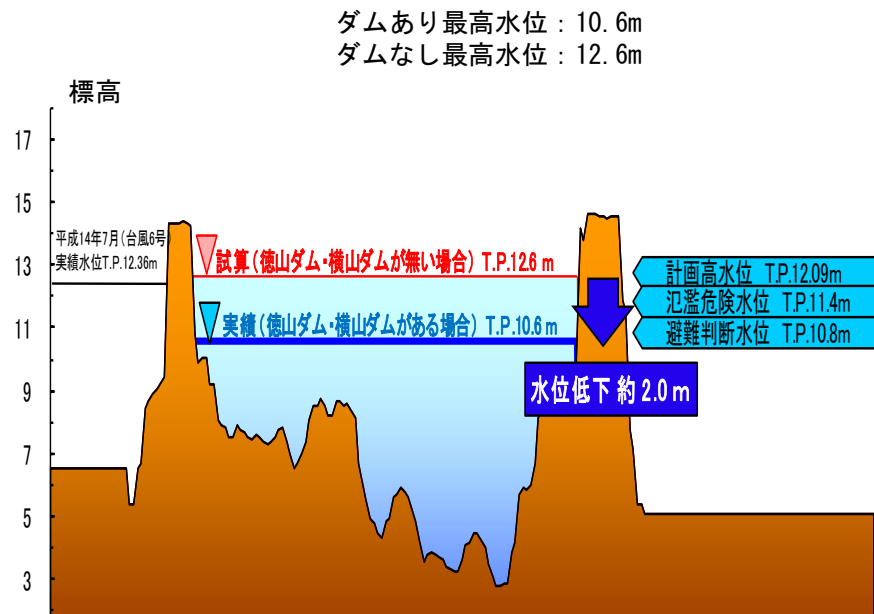
防災操作（H26.8）における水位低下効果）

- 平成26年8月の防災操作(洪水調節)では、徳山ダムでは**最大流入量1,210m³/s**をすべて調節し、約4,032万m³の流水を貯留。
- 横山ダムと徳山ダムの連携操作による万石地点の流量低減効果は**約1,500m³/s**、水位低減効果は**約2.0m**であったと推定。
- 横山ダムと徳山ダムがなかった場合、**計画高水位を超過していたと推定されるが、両ダムによる防災操作により、計画高水位以下に水位を低減させ、避難判断水位に達することを防止。**
- 平成26年8月の徳山ダムと横山ダムによる防災操作(洪水調節)において、**堤防が決壊したと仮定した場合、約2,700haの浸水被害を回避し、その被害軽減効果は約6,100億円と試算**(木曽川上流河川事務所により算出)。

徳山ダム・横山ダム連携操作による洪水調節

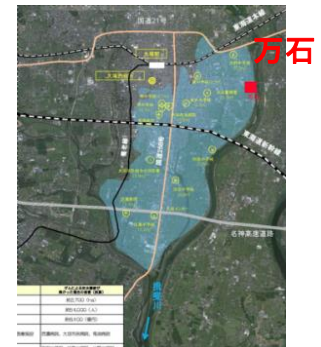


万石地点の水位低減効果（平成26年8月10日出水）

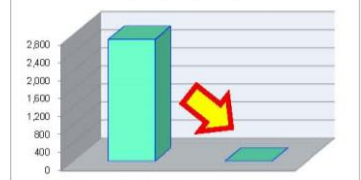


※1 T. P. (東京湾平均水面)
※2 ダム無しの水位は万石地点H-Q式より算出

浸水被害想定範囲



浸水総面積【ha】



総被害額【億円】

